

俳句、難しい？

いえいえ、俳句のネタは何でも良いのです。

その日食べたランチが美味しかったとか、夫婦喧嘩とか、ほんの大切な日常の、とある部分を切り取る作業が私の俳句です。嗅覚、視覚、聴覚、味覚といったあらゆる感覚器官を味わうことは醍醐味でもあります。

私にとって俳句を一言で言うならば、「感動」です。

忙しく過ぎ行く毎日。

その中には良いこともあれば、悪いこともある。けれど新しい何かも含まれています。日常はすべりと過ぎ去るからこそ日常です。

でもその中から角度を変えて見つめ直す。見たいものと同じ向き合うことにより、

幸せや感動を見いだすことが出来るように思うのです。

その何気なさの中に隠れている小さな感動を「俳句」というアイテムを使ってあなたも見つけてみませんか？

『四月馬鹿』

かけてるし眼鏡を探す四月馬鹿

レコードに息を吹きかけ昭和の日

春愁や見知らぬ街に一人ゐて

伊豆の海蜜柑山より見て育つ

伊豆の海飛魚までも透き通る

民宿の窓に夜干しの水着かな

干物屋に昭和の風や扇風機

ただ歩くだけの汀に桜具

歩きたき坂を歩いて花の昼

墓洗ふまだ日当たらぬ朝のうち

和菓子屋の暖簾下ろして秋の暮

▲ 上記3句は私が西島眼鏡店を訪れた日を詠んだものです。

以下はタツシさんも共感してくれるであろう？私の地元（熱海市）を詠んだものです。

俳句に興味のある方は、ぜひご連絡下さい。

また、私の拙い俳句ブログURLです。見て下さったら嬉しいです。

<http://o.z-z.jp/?ochibahiroi316>



俳句、座っている静的な印象があったのですが、とても動的で、気持ちがあつた瞬間を写真に撮るように感じました。いつでも何処でもいつでも写真が撮れますね。

